

科目名	コンピュータシステム I B						
科目名(英)							
単位数	4単位		時間数	60時間		担当者	
実施年度	2022年度		実施時期	後期		担当者実務経験	
対象学科・学年	国際ITエンジニア科2年						
授業概要	情報活用試験(J検)の出題範囲に準拠し、IT人材として必要な基礎知識のうち、パソコンのハードウェアインタフェース、ソフトウェアの基礎知識、情報社会におけるコンピュータシステムの知識、高度情報化社会についての課題や問題点、情報モラルや関連法規の知識など幅広い知識について学ぶ。基礎的な用語や考え方について体系的に学習し、演習問題を活用して知識の習熟を高める。						
授業形式	講義： ○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
		○				ハードウェアのインタフェースの仕組みについて適切に説明できる。	
		○				ソフトウェアの概要や仕組みについて適切に説明できる。	
		○				情報モラルの用語と行動の適切性を学び、WebやSNSで適切な行動をとれる。	
		○				情報社会の関連法規について理解し、適切に行動できる。	
テキスト・教材 参考図書	留学生のためのITリテラシー(インフォテック・サーブ)、ITパスポート過去問題						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-2	入出力インタフェース					
	3-4	ソフトウェア概要、ワープロソフト、表計算ソフト					
	5-6	プレゼンテーション、データベース、マルチメディア					
	7-8	小テスト、問題演習				これまでの範囲を復習しておくこと	
	9-10	生活とコンピュータシステム					
	11-12	社会におけるコンピュータシステム					
	13-14	高度情報化の進展と課題					
	15-16	小テスト、問題演習				これまでの範囲を復習しておくこと	
	17-18	情報モラルの重要性					
	19-20	ネチケットと個人情報					
	21-22	著作権、関連法規					
	23-24	小テスト、問題演習				これまでの範囲を復習しておくこと	
	25-26	過去問題集演習・解説				これまでの範囲を復習しておくこと	
	27-28	過去問題集演習・解説				これまでの範囲を復習しておくこと	
	29-30	過去問題集演習・解説				これまでの範囲を復習しておくこと	
	評価方法	(1)授業内評価テスト(筆記)を実施する。(2)課題・レポートを実施する。(3)授業の中で課題を指示する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
授業内評価テスト		◎	◎				60%
課題・レポート		○	○		○		20%
受講状況					○		20%
履修上の注意	2/3以上の出席がない場合は単位未取得となる。授業計画は状況により変更になることがある。再試験は実施しない。						

科目名	プログラミング演習						
科目名(英)							
単位数	8単位	時間数	120時間	担当者	浜地 啓		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	国際ITエンジニア科2年						
授業概要	Javaの開発環境とプログラミングの基礎文法を学んだ後、オブジェクト指向の基本的概念であるクラス、継承を中心に学習を進める。各テーマの理解確認として複数の難易度別課題に取り組むことで、プログラミング力を養う。						
授業形式	講義：△	演習：○	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				Javaの開発環境を設定できる	
		○				変数宣言、条件分岐、繰り返しを使ったプログラムを作成できる	
	○	○				クラスや継承等のオブジェクト指向に基づくJavaプログラムを作成できる	
テキスト・教材 参考図書	Java第3版 入門編 ゼロからはじめるプログラミング(プログラミング学習シリーズ) (2021/翔泳社)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-4	開発環境の構築・基本的なプログラム					
	5-8	変数と型					
	9-12	文字と文字列					
	13-16	配列					
	17-20	多次元配列					
	21-24	比較演算子					
	25-28	論理演算子					
	29-32	if文、switch文				授業の前半の内容を復習する(2時間)	
	33-36	while文、for文					
	36-40	クラスの基礎(フィールド、メソッド)					
	41-44	クラスの基礎(オーバーロード、コンストラクタ)					
	45-48	クラスの継承					
	49-52	Java検定3級対策①					
	53-56	Java検定3級対策②				Java検定3級の問題を解いてくる(2時間)	
	57-60	まとめ					
評価方法	(1) 課題として、Javaプログラミング検定3級を受験する。(2) 授業中に課題を指示する。(3) 授業内評価テストを実施する。(4) 受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(80%以上で合格)・A(70%以上で合格)・B(60%以上で合格)・C(50%以上)・D(50%未満)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題		◎		○		50%
	授業内評価テスト	○	◎				40%
	受講状況				◎		10%
履修上の注意	2/3以上の出席がない場合は単位未取得となる。 授業計画は状況により変更になることがある。再試験は実施しない。						

科目名	IT応用 I B						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	
実施年度	2022年度		実施時期	後期		担当者実務経験	
対象学科・学年	国際ITエンジニア科2年						
授業概要	PowerPointを使って、プレゼンテーションを作成し、発表の練習をしながら、内容がしっかりと相手に伝わる発表ができるようにする						
授業形式	講義：△		演習：○	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○				PowerPointを使って、プレゼンテーション資料が作成できる	
	○	○				相手に伝わるように発表ができる	
テキスト・教材 参考図書	講師作成資料等						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	PowerPointの画面構成、スライド作成					
	2	アニメーション、画面切り替え効果					
	3	リハーサル機能					
	4	スライド作成					
	5	スライド作成					
	6	第1回プレゼン発表				発表前にはプレゼンを完成させる	
	7	第1回プレゼン発表				発表前にはプレゼンを完成させる	
	8	アニメーション付きのプレゼン作成					
	9	アニメーション付きのプレゼン修正					
	10	アニメーション付きのプレゼン仕上げ					
	11	発表練習(Wordで発表内容をまとめる)					
	12	発表練習(発表内容の修正)				発表内容はある程度完成させる	
	13	スライド修正、原稿完成					
	14	第2回プレゼン発表				発表前にはプレゼンを完成させる	
	15	第2回プレゼン発表				発表前にはプレゼンを完成させる	
評価方法	(1)授業の中で課題を作成する。(2)発表内容を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題作成		◎				60%
	発表内容	○	○				40%
履修上の注意	2/3以上の出席がない場合は単位未取得となる。授業計画は状況により変更になることがある。再試験は実施しない。						

科目名	言語ⅡB						
科目名(英)							
単位数	4単位		時間数	60時間		担当者	
実施年度	2022年度		実施時期	後期		担当者実務経験	
対象学科・学年	国際ITエンジニア科2年						
授業概要	N1レベルの文法項目を学び、日常的な場面に加えて更に幅広い場面で使われる日本語が理解し、運用できるようになる						
授業形式	講義：○		演習：△		実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					日常のより幅広い場面で必要なN1レベルの文型を理解し、自分の言葉で説明できる	
	○					フォーマルな場面と日常的な場面での日本語の差異を理解し、適切な文法の使い分けができる	
		○				学習した文型を使って相手や状況にふさわしい文を作ることができる	
テキスト・教材 参考図書	『新完全マスター文法 日本語能力試験N1』(スリーエーネットワーク)						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1・2	前期の復習 / 文法形式の整理 C・D					新出語彙等は必ず家で復習をすること
	3・4	文法形式の整理 E / 文法形式の整理 F					新出語彙等は必ず家で復習をすること
	5・6	文法形式の整理 G / まとめテスト					新出語彙等は必ず家で復習をすること
	7・8	第2部1課文の組み立て1/ 2課文の組み立て2					新出語彙等は必ず家で復習をすること
	9・10	第2部3課文の組み立て3/ まとめテスト					新出語彙等は必ず家で復習をすること
	11・12	第3部1課時制 / 2課条件を表す文					新出語彙等は必ず家で復習をすること
	13・14	3課視点を動かさない手段1 / 4課視点を動かさない手段2					授業内評価テスト準備
	15・16	授業内評価テスト① / 第3部5課視点を動かさない手段3					新出語彙等は必ず家で復習をすること
	17・18	6課視点を動かさない手段4 / 7課指示語表現					新出語彙等は必ず家で復習をすること
	19・20	8課「は・が」の使い分け / 9課接続表現					新出語彙等は必ず家で復習をすること
	21・22	10課省略・繰り返し・言い換え / 11課文体の一貫性					新出語彙等は必ず家で復習をすること
	23・24	12課話の流れを考える / まとめテスト					新出語彙等は必ず家で復習をすること
	25・26	第1回模擬試験 / 解説					新出語彙等は必ず家で復習をすること
	27・28	第2回模擬試験 / 解説					授業内評価テスト準備
29・30	授業内評価テスト② / 履修内容のまとめ						
評価方法	(1)授業内評価テストを実施する。(2)小テスト、課題を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業内評価テスト	◎	◎				60%
	小テスト	◎	◎				20%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意	2/3以上の出席がない場合は単位未取得となる。 授業計画は状況により変更になることがある。						

科目名	言語基礎ⅡB						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	
実施年度	2022年度		実施時期	後期		担当者実務経験	
対象学科・学年	国際ITエンジニア科2年						
授業概要	日本語能力試験N1レベルの語彙をマスターするために、専門のテキストに沿って学習し、知識を積み上げていく。また、学んだ語彙を使用した発話練習も行う。						
授業形式	講義：○		演習：△	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	◎					日本語能力試験N1レベルの語彙を習得する	
		○				習得した語彙を適切な場面で運用できるようになる	
テキスト・教材 参考図書	『新完全マスター語彙 日本語能力試験N1』(スリーエーネットワーク)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	第2部2章1課「副詞・形容詞」				次回の予習・小テストの準備	
	2	第2部2章2課「動詞・名詞」				次回の予習・小テストの準備	
	3	第2部3章1課「漢語」				次回の予習・小テストの準備	
	4	第2部3章2課「和語」				次回の予習・小テストの準備	
	5	第2部4章1課「程度、時間、頻度の副詞」				次回の予習・小テストの準備	
	6	第2部4章2課「後ろに決まった表現が来る副詞」				次回の予習・小テストの準備	
	7	第2部4章3課「まとめて覚えたい副詞・その他の副詞」・復習				次回の予習・授業内評価テストの準備	
	8	第2部5章1課「ものの様子・人の様子①」・授業内評価テスト				次回の予習・小テストの準備	
	9	第2部5章2課「人の様子②」				次回の予習・小テストの準備	
	10	第2部6章1課「体の言葉を使った慣用表現①」				次回の予習・小テストの準備	
	11	第2部6章2課「体の言葉を使った慣用表現②・その他の慣用表現」				次回の予習・小テストの準備	
	12	第2部7章1課「複合動詞①」				次回の予習・小テストの準備	
	13	第2部7章2課「複合動詞②」				次回の予習・小テストの準備	
	14	第2部7章3課「接尾辞・接頭辞」				次回の予習・授業内評価テストの準備	
	15	復習・授業内評価テスト					
評価方法	(1)授業内評価テストを実施する。(2)小テスト、課題を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業内評価テスト	◎	◎				60%
	小テスト	◎	◎				20%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意	2/3以上の出席がない場合は単位未取得となる。授業計画は状況により変更になることがある。						

科目名	言語応用ⅡB							
科目名(英)								
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者		
実施年度	2022年度		実施時期	後期		担当者実務経験		
対象学科・学年	国際ITエンジニア科2年							
授業概要	N1レベルの聴読解問題に取り組み、実生活の幅広い場面で必要な読み聴きの力を習得することを目的とする。							
授業形式	講義：○		演習：△	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
	○					N1レベルの語彙や表現を習得し、使用言語域を拡大することができる。		
		○				耳からの情報だけで話の要点を掴み、内容を理解し適当な応答をすることができる。		
		○				文章を正しく読み取り、文脈や話の意図が理解できるようになる。		
テキスト・教材 参考図書	『ドリル＆ドリル日本語能力試験N1聴解・読解』（ユニコム） 『新完全マスター読解N1』（スリーエーネットワーク）							
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示	
	1	後期授業について、読解：文章のしくみを理解する 対比					授業の復習および次回の予習	
	2	聴解：課題理解第3回、読解：文章のしくみを理解する 言い換え					授業の復習および次回の予習	
	3	聴解：ポイント理解第3回、読解：文章のしくみを理解する 比喩					授業の復習および次回の予習	
	4	聴解：概要理解第3回、読解：文章のしくみを理解する 疑問提示文					授業の復習および次回の予習	
	5	聴解：即時応答第3回、読解：問を解く技術を身に付ける 指示語を問う					授業の復習および次回の予習	
	6	聴解：統合理解第3回①、読解：問を解く技術を身に付ける 誰が何を問う					授業の復習および次回の予習	
	7	聴解：統合理解第3回②、読解：問を解く技術を身に付ける 下線部の意味を問う					授業内評価テスト準備	
	8	授業内評価テスト①、後期前半まとめ					授業の復習および次回の予習	
	9	聴解：課題理解第4回、読解：問を解く技術を身につける 理由を問う					授業の復習および次回の予習	
	10	聴解：ポイント理解第4回、読解：問を解く技術を身に付ける 例を問う					授業の復習および次回の予習	
	11	聴解：概要理解第4回、読解：全体をつかむ					授業の復習および次回の予習	
	12	聴解：即時理解第4回、読解：情報を探し出す 広告					授業の復習および次回の予習	
	13	聴解：統合理解第4回①、読解：情報を探し出す お知らせ					授業の復習および次回の予習	
	14	聴解：統合理解第4回②、読解：情報を探し出す 説明書き					授業内評価テスト準備	
	15	授業内評価テスト②、後期後半まとめ						
評価方法	(1)授業内評価テストを実施する。(2)小テスト、課題を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	授業内評価テスト	◎	◎				60%	
	小テスト	◎	◎				20%	
	受講状況				◎		20%	
履修上の注意	2/3以上の出席がない場合は単位未取得となる。 授業計画は状況により変更になることがある。							

科目名	一般教養Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	
実施年度	2022年度		実施時期	後期		担当者実務経験	
対象学科・学年	国際ITエンジニア科2年						
授業概要	言語と非言語の文章題を解く事により、社会人として必要な知識や問題解決力を身につけることを目標とする。						
授業形式	講義：○		演習：△	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					日本で生活をする上で最低限必要となる漢字の問題を解くことができる。	
	○	○				数的な問題の基本を理解し、自分の力で問題を解くことができる。	
		○				時事問題について自分の考えを持つことができる。	
テキスト・教材 参考図書	プリント						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション、就職適性検査の説明、漢字					
	2	SPI対策、漢字				確認テストの準備をしてくる	
	3	SPI対策、漢字				確認テストの準備をしてくる	
	4	SPI対策、漢字				確認テストの準備をしてくる	
	5	SPI対策、漢字				確認テストの準備をしてくる	
	6	SPI対策、漢字				確認テストの準備をしてくる	
	7	SPI対策、漢字				確認テストの準備をしてくる	
	8	時事、漢字				確認テストの準備をしてくる	
	9	時事、漢字				確認テストの準備をしてくる	
	10	時事、漢字				確認テストの準備をしてくる	
	11	時事、漢字				確認テストの準備をしてくる	
	12	時事、漢字				確認テストの準備をしてくる	
	13	時事、漢字				確認テストの準備をしてくる	
	14	時事、漢字				確認テストの準備をしてくる	
	15	まとめ					
評価方法	(1)定期試験を実施する。(2)確認テストを数回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				60%
	小テスト	○					20%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意	2/3以上の出席がない場合は単位未取得となる。 授業計画は状況により変更になることがある。						

科目名	ビジネスコミュニケーションⅡB						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間	担当者	寺崎 葉子	
実施年度	2022年度		実施時期	後期	担当者実務経験		
対象学科・学年	国際ITエンジニア科2年						
授業概要	企業内、ビジネス場面で想定される会話が理解でき、応答できるようになる						
授業形式	講義： ○		演習： △	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					日本企業で働くにあたって必要な語彙の習得し、自分の言葉で説明できる	
		○				相手から発せられた会話が理解でき、適切な応答ができる	
		○				適切な語彙、マナーや日本の習慣、慣習も踏まえた発話ができる	
テキスト・教材 参考図書	『人を動かす!実戦ビジネス日本語会話【中級】』(スリーエーネットワーク 2016年)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	授業概要説明、第4課「営業報告会に出る」					
	2	第4課「営業報告会に出る」					
	3	第4課「営業報告会に出る」					
	4	第4課「営業報告会に出る」				第5課の会話確認	
	5	第5課「職場の人とランチに行く」					
	6	第5課「職場の人とランチに行く」					
	7	第5課「職場の人とランチに行く」				授業内評価テストのため第4課、第5課の復習	
	8	第5課「職場の人とランチに行く」・授業内評価テスト				第6課の会話確認	
	9	第6課「家族と休みの計画を立てる」					
	10	第6課「家族と休みの計画を立てる」					
	11	第6課「家族と休みの計画を立てる」					
	12	第6課「家族と休みの計画を立てる」				第7課の会話確認	
	13	第7課「人材紹介会社の人と会う約束をする」					
	14	第7課「人材紹介会社の人と会う約束をする」					
	15	第8課「人材紹介会社の人を面談をする」・まとめ・定期試験準備				定期試験のための復習	
評価方法	(1)次の授業で前回の新出語彙について小テストを実施する (2)宿題を数回課す (3)授業内評価テストを実施する (4)定期試験(筆記)を実施する (5)受講状況は出席状況、授業態度、課題提出状況を観点とする 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				40%
	授業内評価テスト	◎	◎				20%
	小テスト				◎		20%
	受講状況	◎	○		○		20%
履修上の注意	2/3以上の出席がない場合は単位未取得となる。 授業計画は状況により変更になることがある。						

科目名	接客演習B						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	姫嶋 幸子		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	国際ITエンジニア科2年						
授業概要	1)日本でのビジネス場面で、必要なマナーについて知識を得る 2)1)を踏まえてビジネスシーンでの受付対応、お見送りができるようになる						
	iCDタスクコード						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○	○	○		第一印象を大切にしたい挨拶を常にすることができる	
	○	○				正しい敬語で受け答えができ、相手に良い印象を与えるポイントを説明できる	
		○				日本独特のしきたりを理解し、正しいマナーを日本語で説明できる	
		○		○		愛想のよい電話の受け方ができる	
		○				あらゆるサービスの場面で適切な対応の仕方を選択肢から選ぶことができる	
テキスト・教材 参考図書	参考: サービス接客検定3級実問題集・プリント						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	第一印象・感じのいい自己紹介					
	2	第一印象・入退室				ロールプレイングのための課題をすること	
	3	敬語・書類の渡し方				次週、確認テストを行うので、指定の範囲を復習すること	
	4	指し示し方・物の拾い方、渡し方					
	5	日本における感じのいいビジネスパーソンの髪型、服装					
	6	日本における冠婚葬祭時のしきたりとマナー				次週、確認テストを行うので、指定の範囲を復習すること	
	7	受付対応練習①基本的な言葉の練習				ロールプレイングのための課題をすること	
	8	受付対応練習②ご案内のルーティンを覚える				ロールプレイングのための課題をすること	
	9	受付対応練習③クレームをうける				ロールプレイングのための課題をすること	
	10	受付対応練習④総復習					
	11	サービス接客検定3級にチャレンジ				次週、確認テストを行うので、指定の範囲を復習すること	
	12	サービス接客検定3級にチャレンジ				次週、確認テストを行うので、指定の範囲を復習すること	
	13	サービス接客検定3級にチャレンジ				次週、確認テストを行うので、指定の範囲を復習すること	
	14	サービス接客検定3級にチャレンジ					
	15	まとめ・発表会					
評価方法	(1)正試験期間中に定期試験を実施する。(2)全コマ数の2/3以上出席し意欲的に取り組むこと (3)学習したことをロールプレイングで表現する (4)発表会を日本語で行う 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				40%
	受講状況				○		20%
	ロールプレイング		○	○	◎		20%
	発表会	○		○	○		20%
履修上の注意	授業で学んだことは、アルバイトなど、日常生活の中で実践すること 各テストで60点以上得点できるよう、必ず授業の復習を行うこと。						

科目名	産業研究						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	福永 沙耶花		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	国際ITエンジニア科2年						
授業概要	就職活動をするにあたって、日本の産業について学び、進路に関する目標設定をする						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標	
	○					就職活動・産業に関する語彙を学び、自分の言葉で説明できるようになる。	
		○				企業情報に関する語彙を学び、自分の言葉で説明できるようになる。	
		○				自分の適性と合う産業を考え、自分で調査することができる。	
				○		授業に積極的に参加し、課題にも真摯に取り組み、提出期限までに提出する。	
テキスト・教材 参考図書	講師作成プリント・麻生塾GCB I テキスト等						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	後期にやるべきことを考える(就職活動に向けて)					
	2	後期の目標設定(就職を含めた)				個人の後期目標を考えておく。年間目標の進捗状況を確認しておく。	
	3	就職までのタイムスケジュールを立てる					
	4	日本の産業					
	5	日本の産業					
	6	日本の産業					
	7	産業ごとの適性・求められる人材について考える					
	8	産業ごとの適性・求められる人材について考える					
	9	日本における就職活動について					
	10	日本における就職活動について					
	11	日本における就職活動について					
	12	面接練習					
	13	面接練習					
	14	面接練習					
	15	面接練習・長期休暇における就職活動について					
評価方法							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題	◎	◎				50%
	受講状況				◎		50%
履修上の注意	2/3以上の出席がない場合は単位未取得となる。授業計画は状況により変更になることがある。再試験は実施しない。						